

1 はじめに

現代私たちの周りには、多くのものがあふれ、生活に必要なものを安価に購入することができる。そのため生徒は、現状で十分満足したり、生活の中で課題はないと考え、自分や家族の生活を豊かにするために自ら考え、進んで生活を工夫したり、実践したりする経験も少ない。

一昨年度の関ブロ山梨大会では、本支部では、基礎的・基本的な事項を定着させるために手縫い（玉結び、玉どめ、なみ縫い、ボタン付け）、ミシン縫い（直線縫い、返し縫い、角縫い）による基礎縫い練習をした後「基礎縫い診断」を実施し、中学校で新たに学習する「まつり縫い」「スナップ付け」を含めた基礎縫いの定着を図ることで製作を効率よく進めることができると考え、授業提案を行った。成果としては、「基礎縫い診断」を実施したことで自分の基礎縫いの技能を理解し、使用目的に応じたポケットの形や大きさ、デザインを考慮した縫い方や作業能率などの工夫を見通しをもって計画することができた。また、自分や家族の生活をより快適、便利にする「リバーシブルバッグ」を工夫して製作することで完成した作品に生徒達は十分満足し、これからのものづくりへの意欲づけともなった。しかし、生徒たちのものづくりへの意欲の継続や生徒たちの自発的な、自分や家族の生活をより豊かにするためには何ができるのかという点に課題が残った。

そこで、これまでの研究をもとに衣生活・住生活の自立を目指して、「生活の課題を実践」の授業に取り組むこととした。現行の学習指導要領では、「『生活の課題と実践』の指導は『各項目で学習した内容を基礎とし、生徒が興味・関心等に応じて家族・家庭や衣食住に関する課題を設定し、主体的に実習や調査などの学習活動に取り組めるようにする』」とある。衣生活・住生活の学習に関心を持ち、生活の課題を主体的にとらえ、実践を通してその解決を目指すことにより、生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育てていきたいと考え、実践を行った。ここに報告したい。

2 研究経過・概要

5月10日	組織づくり，年間計画，本年度の研究テーマの検討
5月18日	春季教研の報告，年間計画，研究テーマ，研究内容の確認
6月1日	研究内容の検討
7月31日	研究内容の検討
8月30日	統一授業研（山梨北中学校 岡田強教諭） 「プログラムを用いた計測・制御をしよう」
9月20日	秋季教研 県教研報告書の作成

3 研究組織

甘利 志賀峰（井尻小）		
鈴木 美奈子（山梨南中）	向山 栄子（山梨北中）	
村田 有希子（塩山中）	古屋 奈穂子（勝沼中）	石田 周子（大和中）

4 研究テーマ

未来社会を展望し、生活を創る力を育てる技術・家庭科教育
～生活の課題を解決できる布を用いたものの製作～

5 研究のねらい

(1) 生徒の実態

【事前調査】

事前に生徒の実態把握のために、アンケート調査、聞き取りなどを行った。

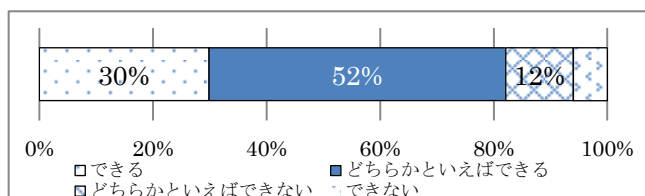


図1 玉結び、玉どめ、なみ縫い、ボタン付けができる

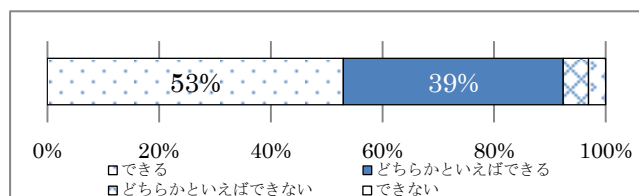


図2 ミシンを使って直線縫いができる

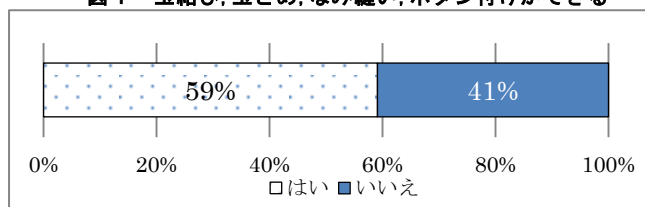


図3 ものづくりが好き

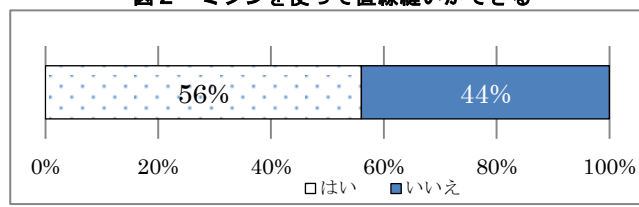


図4 授業以外でミシン縫いや手縫いを活用したことがある

生徒の実態として、以下のことが考えられた。

- 基礎的な技能は、身につけていると感じているが、ものづくりをしてみたいが、技能に自信がない生徒もいること。
- 自分や家族の生活の課題を意識し、計画し、実践することへの意識は低いということ。

(2) 目指す生徒像

衣生活・住生活における課題を見付け、自分や家族の生活を豊かにするために工夫ができる生徒

(3) 研究仮説

衣生活の学習において、「生活の課題と実践」を設定し、生活の中から課題を見付け、それを改善するために布を用いたものの製作に取り組むことにより、自分や家族の生活を豊かにするために生活を工夫し、実践できる生徒が育つであろう。

6 研究内容

(1) 指導計画

時数	学習内容			
4	C 衣生活・住生活と自立	C	衣服のはたらきと日常着の活用	
8			(1)	日常着の手入れ（補修を含む）
1			アウ	基礎縫い診断
9		(3)	リバーシブルバックの製作	
1		C	課題を見付けよう	
1		(3)	製作計画	
1	イ	生活の課題と実践	製作計画の交流	
			家庭での実践	
			作品発表会	
2				

衣生活と自立の授業を全 27 時間扱いとし、指導計画を立てた。「日常着の活用」「日常着の手入れ（補修を含む）」を学習後、「基礎縫い診断」を行うことで、自分の技能の習得度を自覚することができた。その後、自分の技能を生かした「便利ポケットを付けたリバーシブルバックの製作」を行い、「生活の課題を解決できる布を用いたものの製作」を行う指導計画を作成した。

(2) ワークシートの工夫

一昨年度の研究では、基礎縫いを生かした「便利ポケットを付けたリバーシブルバックの製作」を本支部では授業実践を行った。その時思考の過程が見えるようなワークシートを作成し、利用した。ワークシートには、「いつ・どんな時に使うか」をイメージし、デザインや工夫したいところ、製作で気をつけたいことの記入欄を設けた。そのことによってイメージをより具体化でき、製作への意欲を高めることにつながった。また、友だちからのアドバイスを付箋を利用し、アドバイスからデザインを再考、修正し、製作に入った。ワークシートを1枚にすることで、より自分の考えを深め、可視化することができた。教師からのコメント欄には、製作の意欲づけになるような励ましのことばを書き入れた。

これらのことを生かして「生活の課題を解決できる布を用いたものの製作」の授業でも、同様なワークシートを作成した。ワークシートには、自分で課題を見付け、計画を立て、友だちと交流し、そのアドバイスを記入させた。自分の考えの変容の過程が分かるよう交流で気づいたこと、考えたことを記入する欄を設けた。作品発表会のワークシートには一連の活動を振り返っての自分や友だちの評価、製作や活用しての感想や気づいたこと、考えたことを記入する欄や家族のコメント欄を設けた。

生活の課題を解決できる布を用いたものの製作をしよう

1. 我が家であれば、いいと思う布を用いたものについて書いてみよう

衣生活の面	食生活の面	住生活の面	家族の生活の面
-------	-------	-------	---------

①課題を見付けよう

2. 製作品について書こう。

この作品にした理由

②製作計画

・製作しようと思った理由

・工夫したいところ

工夫したいところ

私の完成予想図

準備する道具、材料

製作の手順

②製作計画

・製作手順

3. グループの人の発表やアドバイスから思いついたことをまとめよう。

③製作計画の交流

・友だちのアドバイスから考えたこと

よい点

③製作計画の交流

・友だちのアドバイス

改善点

「作品発表会」◎作品を振り返ってみよう

④自己評価 完成写真	満足度 ()%
	その理由は

製作しての感想

活用しての感想

家族の感想

④家族からの評価

作品発表会を終えて

⑤発表会をふり返って

(3) 授業の実践の様子

①課題を見付けよう (1 / 5)

身の周りにある布製品に目を向け、家庭生活がより豊かになるものを、自分や家族の生活を見つめ、課題とし設定させた。また、家族のためのものを作る生徒には、家族の希望をインタビューしてくるよう伝えた。

②製作計画 (2 / 5)

今まで学習してきた知識や技能を生かし、自分や家族の課題を解決できる「布を用いたものの製作」の計画を立てさせた。

③製作計画の交流 (3 / 5)

グループごとに、設定した課題やその解決方法、工夫した点など、理由とともに発表させ、付箋を使ってよい点や改善点をアドバイスさせた。また、グループの仲間の発表やアドバイスから再考、修正し、製作計画を完成させた。

「丸めて持ち運びのできる文具入れ」を考えた生徒には、「入れるものに合ったポケットにしているね」「ポケットの作り方を応用しているね」とよい点や「スナップをつけて落ちないようにした方がいい」「飾りボタンを付けた方がいい」という友だちからのアドバイスがあった。

④作品発表会 (4, 5 / 5)

課題に対する成果やその課題についてまとめ、交流させた。友だちからの意見やアドバイスをもとに、さらに生活をよりよくするために、気づいたことをまとめ、これからの生活に生かせるようにした。

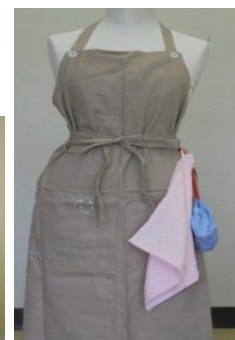
①の作品は「家で文具類がいつでもどこかへ行って



製作計画の交流の様子



生徒の作品①



生徒の作品②

しまうので、まとめておくと便利」と考え、製作された。製作、活用後の振り返りには、「持ちやすく、コンパクトなので使いやすくて助かった」「友だちのアドバイスからボタンを付けたので、ものが落ちないでよかった」と課題を解決できた様子が

書かれており、友だちからも「簡単に作れそうなので、作ってペンとかを整理するのに使いたい」とコメントされた。また、家族のコメントにも「文具をいつも探していたが、これで1つにまとめ、使いたい時に取り出せるので便利」「便利なのでメイク用品入れとしてもう1つ作ってほしい」とあった。

②の作品は、家事をする母がいつでも手を拭けるようにエプロンのわきにボタンを付け、タオルを掛けられるような工夫をした作品である。製作計画交流の時には、友だちからの付箋に「すぐ手が拭けてよいアイデアだと思う」「何枚もタオルを準備しておくといい」というものや「洗濯ばさみを入れる小袋も作り、タオルと小袋を付け替えられるようにしたらもっと便利だと思う」とコメントを受けていた。それらを受け、袋を付けられるような作品に変更した。製作、活用後の振り返りには、「始めはタオルを掛けることだけを考えてたが、友だちからのアドバイスで簡単な工夫で便利なエプロンになってよかった」「料理だけではなく、洗濯するときも使えてよかった」とあり、友だちのアドバイスから課題を解決できた様子があった。

その他にも、はかなくなったジーンズでバックを製作したものや家にある余った布を組み合わせて製作した鍋敷きなど、簡単なアイデアで生活が豊かになる作品が発表され、家庭で活用して家族に喜ばれたという話や友だちが製作した作品を今度は挑戦してみたいという感想、簡単なアイデアで課題を解決できることが分かったという感想もあった。

〈生徒のワークシート〉

*** 生活の課題を解決できる布を用いたものの製作をしよう ***

食生活の面	食生活の面	住生活の面	家族の生活の面
食卓の整理 お皿の洗い場 お風呂の洗い場	トイレのゴミ箱 お風呂の洗い場 お風呂の洗い場	タオルの収納 お風呂の洗い場 お風呂の洗い場	お風呂の洗い場 お風呂の洗い場 お風呂の洗い場

①課題を見付けよう


2. 製作法について書こう。

この作品にした理由
洗濯ばさみを入れる小袋も作り、タオルと小袋を付け替えられるようにしたらもっと便利だと思う

②製作計画

・製作しようと思った理由

工夫したいところ



私の完成予想図

③製作計画の交流

・友だちのアドバイス


・製作手順

③製作計画の交流

・友だちのアドバイスから考えたこと

「作品発表会」○作品を撮ってみよう

④自己評価



満足度 (70) %
その理由は
縫い方が
綺麗になって
しまった所が
あったから。

製作しての感想

製作時間があまりかからず、手順が簡単でよかった。少し難しかった部分があるので、丁寧に作るようにしたい。

活用しての感想

想像以上に使いやすかった。ポケットの大きさなど工夫して作るようにしたい。

家族の感想

④家族からの評価

家族の感想

⑤発表会をふり返って

7 成果と課題

【事後調査】

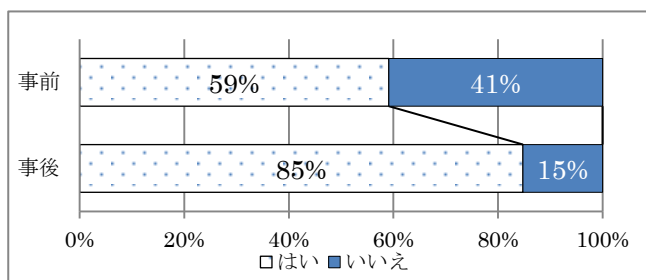


図5 ものづくりが好き

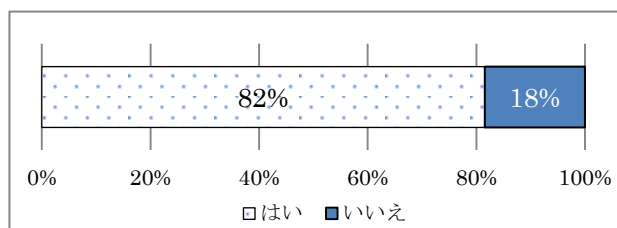


図6 これからも、ものづくりをしたい

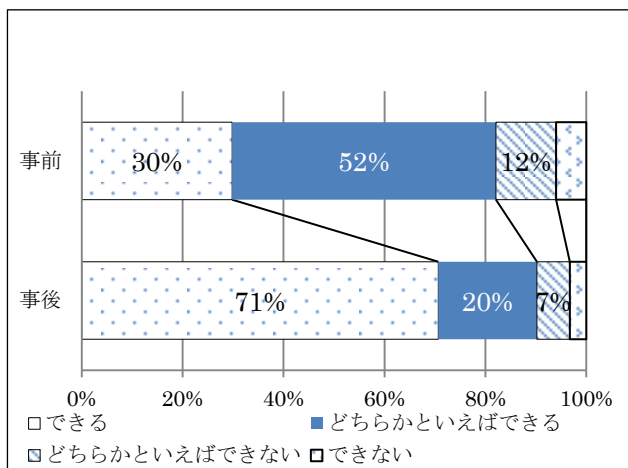


図7 玉結び、玉どめ、なみ縫い、ボタンつけができる

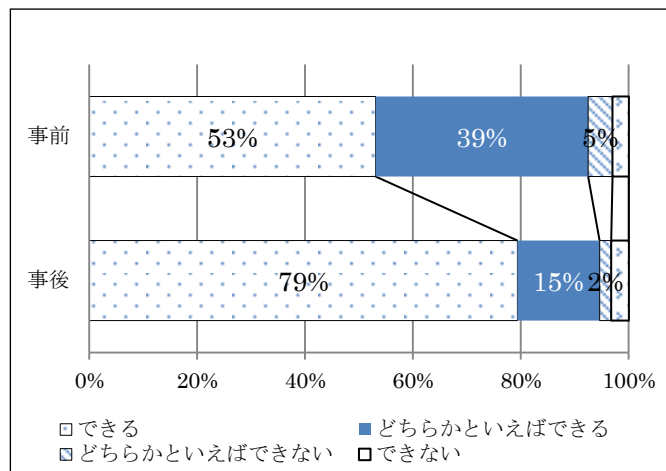


図8 ミシンで直線縫いができる

(1) 成果

- ・「思考の過程」が見える工夫をしたワークシートを衣生活の指導計画に繰り返し設定することによって、バックの製作時には、ワークシートを記入することが難しかった生徒も、授業の流れ（課題設定→計画→実践→改善）を意識し、「課題を見付ける」「解決するための手だてや実践計画」「家庭実践」「評価・次の実践へ向けての改善」と、自分の課題解決のための流れをつかむことができた。
- ・基礎縫い診断、2回の製作を行ったことで、生徒達も技能に自信をもち、また家族からのコメントや友だちからのよい評価を受けたことで、製作への意欲を高めることができた。

(2) 今後の課題

- ・生徒の課題の持たせ方
教師から見て課題だと感じている点を課題とは感じていない生徒や現状で満足しているので課題はないと考える生徒もいた。生徒たちにどのように課題を見付けさせるのか、そこに至るまでの授業をどのように仕組んでいくのかについて研究を継続していきたい。
- ・ものづくりへの意欲の継続と生活を豊かにするための視点を持たせること
家庭の生活に目を向け、実践を重ねることでものの見方・考え方や自分が家族に貢献できる存在であることに気付くこともできる。今後、一層連携が図れるよう、その方法も探していきたい。